

年間第二主日

2012.1.15

ヨハネ 1・35-42

教会の典礼の暦に従ってささげられる日曜日のミサは、クリスマスの喜びのうちに過ごした降誕節を超えて、今日は年間第二主日を迎えています。

クリスマスとそれに続く降誕節の季節は、私たちが生きる世界の中に神が訪れてくださり、ご自分を示してくださったことを、信仰のうちに受け止めた教会の喜びに満ちた祝いの季節です。私たちは洗礼を受けて、教会の一員となったことによって、キリスト教の教会に伝えられてきた信仰を共有する者たちとして、ベツレヘムの馬屋のお生まれになったイエス・キリストにおいて、神が私たちの世界に訪れてくださったことを喜びあったのです。私たちが受け入れて、その信仰を生きる者たちとなった、キリスト教の教会に伝えられてきた信仰においてはイエス・キリストはそのようなお方です。つまり、イエス・キリストにおいて、神は私たちが生きるこの世界に、私たちと同じ一人の人となってお生まれになり、福音書を通して私たちが知る事の出来る、あのようなご生涯を私たちに示してくださったのです。神がその被造物である私たち人間への愛のために、自ら人となっておくださったこの神の愛の神秘を、キリスト教の教会の信仰は、私たちにとってもう少し理解しやすくするために、ベツレヘムの馬屋のお生まれになったイエス・キリストを神の子とお呼びします。イエス・キリストを神の子とお呼びするキリスト教の信仰は、ベツレヘムの馬屋でお生まれになったイエス・キリストは、そのようにして私たちの世界に訪れてくださった神であるということを書き表そうとしているのです。

神の子として私たちの世界にお生まれになられたイエス・キリストは、その人としてのご生涯を通して、私たち全ての者に、神の子として生きる道を示してくださったのです。それが神の被造物として私たちの、本来のあるべきあり方だからです。そしてこれら全てが、私たちへの神の愛の姿なのです。私たちはイエス・キリストにおいて、私たちへの愛のゆえに人となられた神の愛の姿を知ることが出来たのです。私たちのキリスト者としての信仰は、イエス・キリストにおいて神が示しておられる、私たちへのこのような神の愛を信じる信仰なのです。

3年周期で一巡りする典礼暦の **B** 年に当たる今年の年間主日で、私たちはマルコ福音書が語る、人となられて私たちの世界に生きてくださったイエス・キリストのご生涯のメッセージに耳を傾けるように招かれています。しかし、それに先立って、今日の年間第二主日の福音は、今聴いたようにヨハネ福音書全

体に渡って語られる、イエス・キリストへの信仰を予め総括的に提示するヨハネ福音書の序文に続く、イエス・キリストとそのイエス・キリストを信じた最初の弟子たちのとの出会いを、私たちに思い出させようとしています。そこに、キリスト教の信仰を生きようとする、私たちにとっての信仰の原点が示されているからです。

ヨハネ福音書の冒頭に置かれて序文において、私たちが信じるイエス・キリストは、肉となって、つまり一人の具体的な人となって、私たちの世界の中に来てくださり、私たちとともに生きてくださった神のみことばとして示されています。神はイエス・キリストにおいて、私たちの世界に語りかけてくださったのです。その神の私たちへの愛の想いが、私たちの心に届くように、神のみことばであるお方、つまり神の愛そのものを示す神のみことばは、私たちと同じ肉のいのちを生きるために、人となって私たちの世界に来てくださったのです。それは、肉のいのち、すなわちこの世のいのちを生きる私たちに全く新しいいのちの光をもたらすためだったのです。神のみが、この肉の世に生きる私たちに、生きて行くためのいのちの光をもたらすことが出来るお方だからです。

このようにして、私たちの世界にいのちの光をもたらすために来てくださった、神のみことばを聴くためには、肉となられた神のみことばとしてのイエス・キリストと出会わなければなりません。

けれども、肉となって私たちの世界に来てくださった神のみことばであるイエス・キリストは、まさにそのことによって、この世の肉のいのちを生きる私たちと同じように、限られた肉のいのちの時間の制約をその身に引き受けてくださったのです。それがみことばの受肉ということです。そうであるなら、私たちは肉となって私たちの世界の来て下さった神のみことばであるイエス・キリストとどのように出会うことができるのでしょうか。

今日の福音は、私たちのカトリック教会が伝えてきた、イエス・キリストと遠く時空を隔てて今の肉の世を生きる私たちとの信仰における出会いの秘密を明らかにしようとしているのです。ここに登場する最初の弟子たちは、神の特別な示しによって、イエス・キリストを知ることが出来た洗礼者ヨハネが指し示して見せたイエスの後について行った人々です。ここから全てが始まったのです。「ラビ、どこに泊まっておられるのですか。」と尋ねた彼らに、イエスは「来なさい。そうすれば分かる。」と言われて彼らをご自分のもとに呼んでくださったのです。そして彼らは、洗礼者が指し示したイエスのうちに神が遣わしてくださったメシア、救い主を見ることが出来たのです。最初にイエスと出会ってイエスを信じたアンデレは、兄弟のシモンに、「私たちはメシアに出会った」と言って彼をイエスのもとに連れて行きます。そのシモンにイエスは、「あ

なたをケファ・ペトロと呼ぶことにする。」と言われたことが、今日私たちが聴いた福音の締めくくりです。今日、私たちがあらためて聴いた今日の福音のこの結びのことばは、私たちの心にどのように響いたでしょうか。ここにカトリックの信者となることによって、私たちが受け入れた私たちのカトリック教会に伝えられて来た、イエス・キリストとの出会いの秘密が語られているのです。私たちはイエス・キリストご自身がペトロをいしずえとして、全ての人を御自分との出会いに招くためにお立てになった教会と出会うことによって、その教会に伝えられてきたイエス・キリストをメシア、私たちの救い主として信じる信仰を生きる者とされ、その信仰によって、イエス・キリストと出会わせていただいたのです。私たちのカトリック信者としてのイエス・キリストへの信仰は、このようにして、今日の福音が語るあの最初の時に、弟子たちをご自分のもとに呼んでくださったイエスと結ばれているのです。

あの最初の時に、洗礼者ヨハネはイエス・キリストを指し示しつつ、「見よ、神の小羊」と告げたことが今日の福音の最初に語られていました。最初の弟子たちは、この洗礼者のことばに背中を押されるようにして、イエスの後について行ったのでした。そして、そこから始まった教会の信仰の中で、私たちは今日もこのミサの中で、「世の罪を除きたもう神の小羊」と、私たちの主イエス・キリストへの信仰を表明するのです。このミサで私たちは、私たちのためにいけにえの小羊となって、十字架の上にそのいのちをささげてくださいましたイエス・キリストに結ばれて、「私の記念としてこれを行いなさい」と言われたイエスのみことばに従って、世の罪を除くためのイエス・キリストの十字架の死によるいけにえの記念の祭儀を、神にささげようとしているのです。この肉の世に神がもたらしてくださった、私たちの世の罪を取り除いて、私たちをご自分の子らとして招いてくださった神の愛のみことばに対する、私たちの感謝に満ちた信仰による応答として、今日も新たな心でこのミサをおささげしたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池 好高